

蒲生干潟の地形調査⑨

■安定している潟湖と川、海、双方からの水流の影響をうける導流堤付近

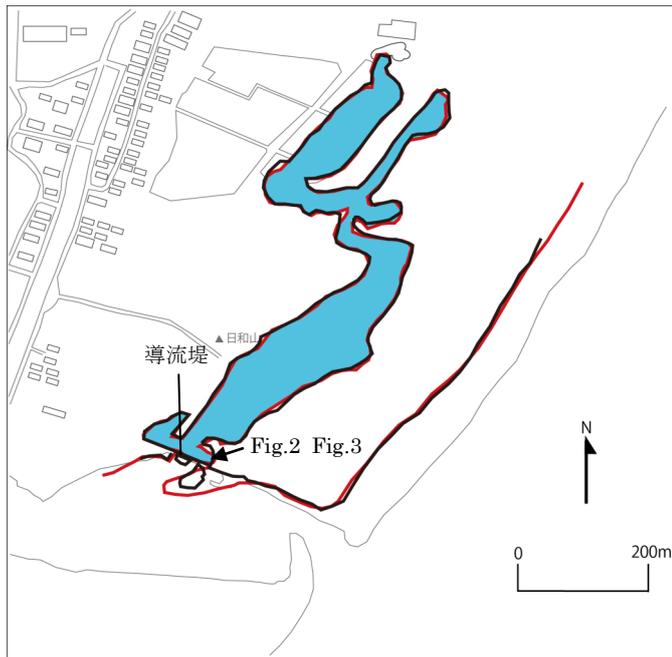


Fig.1 1月8日・2月9日の汀線・海岸線の簡易測量結果



Fig.2 川からと海からの水流が交差 東側通水部分



Fig.3 川から潟湖に流れ込む水 西側通水部分

調査日 2016年2月9日（金）14：40～16：10

この日の満潮時刻は15:48であり満潮時間帯(潮位149cm)に調査を行った。Fig.1で1月の汀線および海岸線を赤、2月のそれを黒で示した。1月の調査と比べて潟湖や海岸線は概ね安定していたが、導流堤付近で多少の地形の変化がみられた。Fig.1からもわかるように1月の調査で導流堤の南側にあった砂州が今回の調査では小さくなっていることが確認された。3箇所ある通水部分の東側付近では上流側と河口側の双方から導流堤に向かって水が流れ込むようすがみられた(Fig.2)。砂州が海からの水流によりけずられていたようにみえた。この付近の地形と水流の関係を調べるために塩分濃度を測定したところ、上流側からの水の流れがみられた部分①では2.8%と汽水域の数値であったのに対し、河口側からの水の流れがみられた部分②では3.4%と海水域の影響が大きい数値であった。

また川から潟湖への水の流入は、3箇所ある通水部分のうち、新しく作られたものと西側部分からの2箇所ではかなりの流速で流れ込んでいたが(Fig.3)、東側からの流入は穏やかであった。